

災害看護

これまで「発災～備え」の災害サイクルに沿って情報提供してきました。今回は、自然災害発生後の環境変化によっておこる「感染症」に焦点を当ててみました。

自然災害によるインフラの破壊でおこる感染症

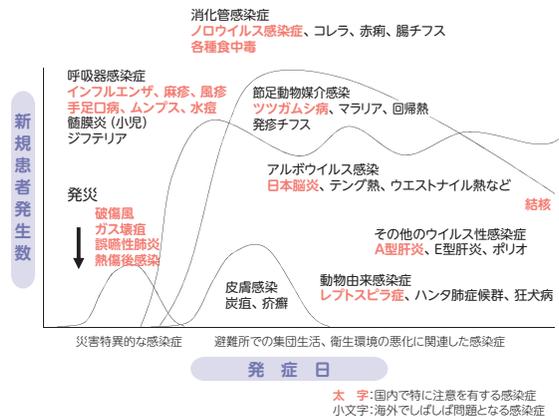
昨今、局地的な豪雨が各地で起こり、床下・床上浸水、土砂崩れ・崖崩れなどの災害が起きています。これらの災害によるインフラの破壊が「感染症」を引き起こす原因のひとつです。どんな「感染症」の危険があるのか、考えてみましょう。



1 自然災害後に発生する感染症

災害に特徴的な感染症	
洪水／津波	外傷 創部の化膿、破傷風、ガス壊疽、炭疽
	汚染水の吸入・誤飲 メリオイドーシス肺炎、緑膿菌性肺炎
	患者体液・汚物による環境汚染に起因 コレラ・細菌性赤痢
	感染した動物や死体との接触 レプトスピラ症（ワイル病）、ペスト、ハンタウィルス感染症
	媒介動物の生息域の拡大 アルボウィルス感染症（テング熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、黄熱、チクングニア、リフトバレー熱、クリミアコンゴ出血熱など）、ダニ媒介性疾患（ツツガムシ病、日本紅斑熱、ライム病）、マラリア、フィラリア
地震	外傷に伴う感染症 洪水・津波と同じ
	土壌の真菌の飛散 コクシジオイデス症
火災 森林	火傷 皮膚感染症
避難生活や移住に伴い問題となる感染症	
全ての災害に共通	経口感染 ウィルス性感染症（ノロウィルス、ロタウィルスなど） A型肝炎、E型肝炎、コレラ、細菌性赤痢 腸チフス、サルモネラ症、アメーバ赤痢、クリプトスポリジウム ランブル鞭毛虫、その他
	飛沫感染 感冒、インフルエンザ、髄膜炎菌性髄膜炎
	空気感染 麻疹、結核
	経皮感染、汚染水との接触 住血吸虫症
	野生動物との接触 レプトスピラ症、狂犬病、ハンタウィルス感染症、ペスト、トキソプラズマ症、エキノコッカス、住血線虫症
	蚊による吸血 アルボウィルス感染、マラリア、フィラリア
	その他の吸血性昆虫、動物による感染 ペスト、発疹チフス、ツツガムシ病、リーシュマニア

2 災害後に問題となる感染症の時間経過



3 公衆衛生基盤の破壊による感染症リスクの増大

- 病原体の増加**
感染経路の質的・量的な変化
- 上下水道
 - 居住環境
 - 衛生害虫・媒介動物
- 災害弱者**
- 体力消耗
 - 睡眠不足・栄養不足
 - 精神的ストレス
 - 自然免疫力の低下

資料①②③ 引用掲載:『自然災害と感染症』より 防衛医学研究センター感染症疫学対策研究官 加来浩器教授

災害発生後の感染症流行を防ぐには、環境改善・指導が重要です!